

# 短答用レジюме2009年度版 (意匠法・商標法編)

## 短答用レジюмеの使用方法

本短答用レジюмеは、別データの(特許法・実用新案法編)と(意匠法・商標法編)のセットであり、(特許法・実用新案法編)を左側に(意匠法・商標法編)を右側にするように印刷することで、四法を対照させながら勉強できます。なお、左綴じの片面A4印刷を想定しておりますので、両面で利用されたい場合は、(特許法・実用新案法編)の2頁目の裏に(意匠法・商標法編)の1頁目が印刷されるように印刷して下さい。

### 使用についての注意点

ユーザーは、個人的な利用を目的とする限りにおいて、本短答用レジюмеの一部又は全部を自由に複製、印刷又は編集できます。

ユーザーは、営利非営利を問わず、個人的利用以外を目的として、本短答用レジюмеの一部又は全部について複製、公開、送信、頒布、譲渡、貸与、使用許諾、転載、再利用等をしないことに同意するものとします。

本短答用レジюмеは、あらゆる事例及び時代について内容の正確性を保証するものではありません。また、本短答用レジюмеは著作者の主観的な法律解釈に基づいて創作されたものであり、事例又は時代の変化によって解釈が異なることがあります。また、内容の誤りに基づいて生じる損害について、著作者は賠償責任を負いません。

本短答用レジюмеの著作権を含む一切の知的財産権は、著作者が保持しま

Copyright (C) 2008- All Rights Reserved

意匠法		商標法	
第一章 総則		第一章 総則	
[目的]		[目的]	
<p>第一条 この法律は、意匠の保護及び利用を図ることにより、意匠の創作を奨励し、もつて産業の発達に寄与することを目的とする。</p>	<p>・優れた意匠を商品に応用することによって需要が増加し、産業の発達が実現される場合や、技術的に優れた意匠によって技術の進歩ひいては産業の発達が実現される場合がある(青本)。</p>	<p>第一条 この法律は、商標を保護することにより、商標を使用する者の業務上の信用の維持を図り、もつて産業の発達に寄与し、あわせて需要者の利益を保護することを目的とする。</p>	
[定義]		[定義等]	
<p>第二条 この法律で「意匠」とは、物品(物品の部分を含む。第八条を除き、以下同じ。)の形状、模様若しくは色彩又はこれらの結合であつて、視覚を通じて美感を起こさせるものをいう。</p>	<p>・意匠として認められるためには、物品性、形状・模様・色彩性、視覚性、審美性の要件を満たすことを要する。                  ・美感とは、視覚を通じて起こる美に対する感覚をいう。また、物品とは、有体物である動産を指す。また、形状とは、外部から観察できる物品の外形をいう(青本)。                  ・H10年改正により部分意匠制度を導入したため、物品の部分も法上の物品に含まれる。独創的で特徴ある部分を取り入れつつ意匠全体で侵害を避ける巧妙な模倣が増加し、十分にその投資を保護できなかったからである(青本)。よって、部分が互換性を有しており且つ独立の商品として取引される場合は、物品と認められる。                  ・組物の意匠にかかる部分意匠は認められない(本項かっこ書)。組物の意匠の趣旨及び目的は、組物全体として統一ある美感の保護だからである(青本)。具体的には、組物の構成物品又はその構成物品の部分について、組み物の部分意匠として意匠登録を受けることはできない。                  ・部分意匠は、「物品の部分の形状、模様若しくは色彩又はこれらの結合」であると定義される。                  ・部分意匠の実施とは、部品の実施ではなく全体の中の部分の実施である。従つて、部品の意匠と部分意匠とが並存した場合は部品の意匠を部分意匠が利用する関係となる。なお、部品のみの実施は部分意匠に対する間接侵害となり、全体の中の部分の実施が直接侵害となる。                  ・形状を特定できないので、物品の部分として物品を離れた模様のみは、意匠法上の保護対象とはならない。模様を有する部分意匠は、物品の部分に係る形状と模様の結合として出願しなければならない。                  ・有体物とは、固体等のように空間の一部を占める有形的な形状等であらえられるものをいう。アイスクリーム、為替用紙、ICチップ、光ファイバー、工業用ダイヤモンドは物品と認められる。                  ・動産とは、不動産以外の物、土地及びその定着物以外の物をいう。但し、使用時には不動産となるものもあつても、販売時に動産として扱われる。門柱、水門、石灯籠、墓石、家屋、滑り台、鉄塔、組み立て橋梁、組み立てバンガロー等は物品と認められる。                  ・液体、気体、流動体、粉状物の集合等は定形的な形をもたないため、法上の物品ではない。但し、集合したものが特定の固定した形態を有する。角砂糖等や、液体を含んでいても一定の形状、模様を保つ水玉置物等は、物品となり得る。                  ・現実に取引されて初めて物品の需要を喚起し、産業の発達を図ることができるため、独立取引性が求められる。                  ・瓶に刻印された文字の部分、絵巻書の絵の部分、Tシャツのアップリケの部分は、物品に該当する。                  ・形態とは、形状、模様若しくは色彩又はこれらの結合のことをいし、物品と混然一体となるものである。                  ・物品がハンカチの場合、ハンカチを結んで作った花の形態は物品自体の形態とは認められない。しかし、物品が置物の場合で、ハンカチで作った置物は物品の形態と認められる。                  ・部分意匠の意匠に係る物品が、意匠に係る物品が意匠法の対象とする「靴下」であつて、「意匠登録を受けようとする部分」が意匠法の対象とする物品とは認められない靴下のかかと部分、であるもの、意匠に係る物品が「包装用容器」であつて、「意匠登録を受けようとする部分」が意匠法の対象とする物品と認められる「包装用容器の蓋」の部分であるものは、意匠法の対象とする物品と認められる。他方、「意匠登録を受けようとする部分」として模様のみを図面に表し、部分意匠の意匠に係る物品を「繊維製品に表す模様」としたものは、物品と認められない。                  ・部分意匠の全体の形態は、視覚に訴えるものでなければならない。全体の形態が意匠に係る物品の通常の取引状態において外部から視認できないもの、全体の形態が微細であるために、肉眼によってはその形態を認識することができないものは、視覚に訴えるものと認められない。                  ・「意匠登録を受けようとする部分」が稜線のみのもは、一定の範囲を占める部分に該当すると認められない。稜線は面積を持たないものであるためである。                  ・部分意匠の意匠に係る物品全体の形態のシルエットのみを表したものを(乗用自動車の側面を投影したシルエットのみを表したものを等)は、一定の範囲を占める部分に該当すると認められない。意匠の外観の中に含まれる一つの閉じられた領域とは認められないためである。                  ・「意匠登録を受けようとする部分」が、他の意匠と対比する際に対比の対象となり得る意匠の創作の単位が表されていない場合、                  ・部分意匠の具体的な内容が、部分意匠の意匠に係る物品、「意匠登録を受けようとする部分」の用途及び機能、「意匠登録を受けようとする部分」の位置、大きさ、範囲、「意匠登録を受けようとする部分」の形態、から直接的に導き出されなければならない。                  ・願書に「部分意匠」の欄の表示がない場合であっても、願書及び図面等によって、部分意匠に関するものであることが明らかでない場合、境界線の表示がないことが作図上の誤記と認められ、願書及び図面等を総合的に判断すれば、境界を当然に導き出すことができる場合は、意匠が具体的なものと認められる。                  ・以下の場合には意匠が具体的なものと認められない。                  ・部分意匠の意匠登録出願であるか、全体意匠の意匠登録出願であるか明らかでない場合                  ・意匠に係る物品又は部分の具体的な用途及び機能が明らかでない場合                  ・「意匠登録を受けようとする部分」の全体の形態が表されていない場合                  ・「その他の部分」の全体の形態が表されていない場合                  ・物品を認識するのに必要な最低限含まれていなければならない構成要素が明確に表されていない場合                  ・「意匠登録を受けようとする部分」の形態が明らかでない場合(各図不一致、部分が一つの閉じられた領域でない、部分を一組の図面以外の図面のみにより特定している、図面において描き分けずに文章で部分を特定している等)                  ・「その他の部分」の形態が明らかでない(物品全体の形態の中での位置、大きさ、範囲が具体的にない)場合                  ・「意匠の説明」の欄に、部分がどのように特定されているかについての記載がない場合                  ・肉眼によって認識できないもの、例えば、粒状体の一単位などは意匠とは認められない。                  ・意匠は具体的な形態として完成し、図面等に現されたときに完成する。</p>	<p>第二条 この法律で「商標」とは、文字、図形、記号若しくは立体的形状若しくはこれらの結合又はこれらと色彩との結合(以下「標章」という。)であつて、次に掲げるものをいう。                  ・見る角度によって動物が動いて見えるような標章(標章は商標法上の商標ではない。                  ・模様は規定されていない。                  ・商標法でいう役務とは、他人のためにする労務または便益であつて、付随的でない(独立して市場において取引の対象となり得るものをいう。                  ・平面商標を商品に表示する際に、社会通念上許容される範囲の凹凸が形成されたとしても、平面商標として扱う。例えば、石版に刻印を付す等である。                  一 業として商品を生産し、証明し、又は譲渡する者がその商品について使用をするもの</p>	<p>・商品とは、商取引の目的たりべきもの、特に動産をいう(青本)、主に有体物を意味するが、例外的に電子情報財(プログラムやデータ)も商品に含まれる(H14年改正本)。                  ・証明とは、主として商品の品質又は役務の質を保證するような場合をいう。                  ・役務ではないものとは、自社製品の宣伝のためのポスター(チラシ)の配布、印鑑登録証明書の交付等である。                  ・商品ではないものとは、有価証券(自己識別されることを有意義ならしめる対象物でないため)、マンション(不動産であるため)、店舗内で供するための鉄鍋に盛られた料理、株券・小切手(有価証券であるため)、景品としての折紙、建築設計業者が注文主の有償で提供する設計図面(流通過程のものではないため)等である。                  ・電気、熱及びエネルギーそのものは商品ではない。料理店が提供してその場で消費する料理は商品ではないが、包装箱に入れられて料理店の店頭で継続的及び反復的に販売する料理は商品である。講座の教材として用いる印刷物が独立して取引の対象とされる場合は、商品となる(H20問32)。                  二 業として役務を提供し、又は証明する者がその役務について使用をするもの(前号に掲げるものを除く。)</p>

<p>2 前項において、物品の部分の形状、模様若しくは色彩又はこれらの結合には、物品の操作(当該物品がその機能を発揮できる状態にするために行われるものに限る。)の用に供される画像であつて、当該物品又はこれと一体として用いられる物品に表示されるものが含まれるものとする。</p> <p>・従来は、それがなければ物品自体が成り立たない画面デザイン(液晶時計の時刻表示部等)や、機器の初期操作に必要不可欠なものの(携帯電話の初期画面等)は、その機器の意匠の構成要素として保護していた。しかし、ある物品一般に想定される使用目的や機能を実現するために必要不可欠であり、機器の一部を構成する画面デザインは、保護されない場合が生じていた。そこで、H18年改正により、物品の本来の機能を発揮できる状態にする際に必要となる操作に使用される画像を、物品の部分の形状、模様若しくは色彩又はこれらの結合に含めて保護対象とした。</p> <p>・物品の機能とは、願書や図面から特定できる意匠から一般的に想起される特定の機能を意味する(青本)。例えば、パソコンは情報処理機能、携帯電話は通信機能、DVD録画再生機は録画再生機能、電子計算機用データ表示機は情報表示機能、ゲーム機はゲーム実行機能を指す。</p> <p>・機能を発揮できる状態とは、物品の機能を働かせることが可能な状態をいい、実際に物品がその機能に従って働いている状態は含まない(青本)。例えば、携帯電話機で通話中やメール送信中の状態、磁気ディスクレコーダーで再生中や録画中の状態、ゲーム機でゲーム中の状態、パソコンでビジネスソフトを使用中やインターネット検索中の状態は含まない。</p> <p>・当該物品と一体として用いられる物品に表示される画像とは、当該機器の表示部に表示されている画像ではなく、当該機器の使用の際に同時に用いられる他の物品の表示部に表示される画像を指す(青本)。例えば、テレビモニターに表示された磁気ディスクレコーダーの録画予約機能等に用いられる画像や、テレビ画面上に表示されたDVD機器の操作画像等である。</p> <p>・画像等がその物品の表示部に表示されている場合だけでなく、同時に使用される別の物品の表示部に表示される場合も保護対象となる(青本)。別の物品に表示されていることは、使用上の便宜にすぎないからである(青本)。但し、物品から独立して販売されるビジネス/ウェアソフト等をインストールして表示される画像は含まれない。ソフトウェアの流通を阻害するおそれがあり、また、一の画面デザインによってそれを表示するソフトウェアを内蔵する物品全体の流通に影響が及ぶおそれがあるからである。</p> <p>・操作とは、物品がその機能に従って働く状態にするための指示を与えること、又は、機械などを操って働かせることを意味する。よって、物品使用者の操作を必要とせず、自動的に提供される画像(コンテンツの画像や映画の一場面等)は物品の機能を発揮するための操作に用いられる画像と認められない。</p> <p>・物品の機能を直接導き出せないような多機能物品は、その旨の説明を記載する必要がある。また、電子計算機は、本来の機能が情報処理であるため、ソフトウェアを使用したり、インターネット検索を行うことは、情報処理機能を発揮させている状態に該当する。</p> <p>・画像は、全体意匠又は部分意匠の一部を構成する要素となる。</p> <p>・画像を含む意匠を意匠登録出願する場合には、そのベースとなる物品が意匠法の対象とする物品でなければならない。(「用画像」や「用インターフェイス」は意匠に係る物品に該当しない。)</p> <p>・例えば、ビデオディスクプレイヤーの意匠において、意匠登録を受けようとする部分である画像が当該物品と同時に使用されるテレビ受像機に表示されるものであっても、「意匠に係る物品」の欄には、「ビデオディスクプレイヤー」と記載されなければならない。</p> <p>・画像を含む意匠において、画像を含む意匠に係る物品が経済産業省令で定める物品の区分のいずれにも属さない場合、その物品の使用の目的、使用の状態等、物品の理解を助けることができるような説明が、「意匠に係る物品の説明」の欄に記載されなければならない。</p> <p>・画像を含む意匠においては、「意匠に係る物品の説明」の欄に、画像が物品のどのような機能を発揮できる状態にするために行われる操作に係るものか、又は、操作方法についての説明を記載する。</p> <p>・画像を含む意匠に係る物品全体の形態についても、一組の図面が必要である。また、画像は織物地のような平面的なものとは認められず、[表面図]及び[裏面図]をもって一組の図面とするとはできない。</p> <p>・その物品と一体として用いられる表示機器等に表示される画像を表す図は、「画像図」として記載する。なお、「画像図」として画像を表すことができるのは、意匠に係る物品が画像を他の表示機器に表示して当該物品の操作を行うものである場合に限られる。また、願書の記載だけでは意匠を十分に表現することができないときは、操作方法を説明する参考図を添付する。</p> <p>・意匠に係る物品と一体として用いられる物品に表示される画像を含む意匠を部分意匠として意匠登録出願する場合であっても、「画像図」のみの意匠登録出願は認められない。</p> <p>・画像を含む意匠の意匠登録出願に係る意匠の認定は、以下の点に關して、願書の記載及び図面等を総合的に判断して行う。    ・当該画像を含む意匠の物品の使用の目的、使用の状態等に基づく用途及び機能    ・前記認定した画像を含む意匠の意匠に係る物品が有する用途及び機能に基づく「画像」の用途及び機能    ・一組の図面及び新断面図、斜視図、画像図等その他必要な図に基づく「画像」の意匠の形態    ・装飾表現のみを目的とした画像は物品の機能を発揮するための操作に用いられる画像とは認められない。例えば、いわゆる壁紙等である。    ・記録媒体自体は操作機構を持たないから、意匠に係る物品を記録媒体とした画像は、物品の機能を発揮するための操作に用いられる画像とは認められない。例えば、CDに記録された画像等である。</p> <p>・電子計算機は、「情報処理」がその機能であるので、ソフトウェアによって表示される画像は、機能を発揮している状態の画像に該当し、保護対象とならない。例えば、OSにより表示された画像や、インターネットを通じて表示された画像等である。</p> <p>・ゲームの画像は既にゲーム機能を発揮した状態の画像であるため、保護対象とならない。例えプリインストールされている画像であっても、ゲームに係る画像は保護されない。ただし、ゲーム機本体の設定用の画像等は物品の機能を発揮するための操作に用いられる画像として保護される。</p> <p>・画像を含む意匠の意匠登録出願に係る意匠が具体的なものと認められるためには、その意匠の属する分野における通常の知識に基づいて、出願当初の願書の記載及び願書に添付した図面等から以下の具体的な内容が、直接的に導き出されなければならない。    ・画像を含む意匠の意匠に係る物品    ・「画像」の用途及び機能    ・部分意匠として「画像」の意匠登録を受けようとする場合には、その位置、大きさ、範囲(但し、当該物品と一体として用いられる物品に表示される「画像」を含む意匠を部分意匠として意匠登録出願する場合に、画像を意匠登録を受けようとする部分にすぎない。当該物品と一体として用いられる物品に対する意匠登録を受けようとする部分の位置、大きさ、範囲は評価しない。)</p> <p>・「画像」を含む意匠の形態    ・以下の場合は、意匠が具体的なものと認められない。    ・意匠に係る物品又は「画像」の具体的な用途及び機能が明らかでない    ・「画像」全体の形態が表されていない    ・意匠に係る物品全体の形態が表されていない(画像のみしか表されていない場合)    ・「画像」を含む、意匠に係る物品の形態に、願書の「意匠に係る物品」の欄に記載された物品の区分に属する物品を認識するのに必要な最低限含まれていなければならない構成要素が明確に表されていない(部分意匠の場合)    ・「画像」が物品の表示部に表示されるものか、当該物品と一体として用いられる物品の表示部に表示されるものか明らかでない</p> <p>・画像を含む意匠についても、意匠に係る物品と公知の意匠の意匠に係る物品とが同一又は類似でなければ意匠の類似は生じない。また、当該物品の表示部に表示される画像に係る意匠登録出願と、当該物品と一体として用いられる物品に表示される画像に係る意匠登録出願は類似することがある。但し、画像の形態が共通していても、両者の全体に対する意匠登録を受けようとする部分の位置、範囲が異なり、類似判断に与える影響が大きくと考えられる場合は、非類似と判断される。</p>	<p>2 前項第二号の役務には、小売及び卸売の業務において行われる顧客に対する便益の提供が含まれるものとする。</p> <p>3 この法律で標章について「使用」とは、次に掲げる行為をいう。</p> <p>一 商品又は商品の包装に標章を付する行為</p> <p>二 商品又は商品の包装に標章を付したものを譲渡し、引き渡し、譲渡若しくは引渡しのために展示し、輸出し、輸入し、又は電気通信回線を通じて提供する行為</p> <p>三 役務の提供に当たりその提供を受ける者の利用に供する物(譲渡し、又は引き渡す物を含む。以下同じ。)に標章を付する行為</p> <p>四 役務の提供に当たりその提供を受ける者の利用に供する物に標章を付したものを利用して役務を提供する行為</p> <p>五 役務の提供の用に供する物(役務の提供に当たりその提供を受ける者の利用に供する物を含む。以下同じ。)に標章を付したものを役務の提供のために展示する行為</p> <p>六 役務の提供に当たりその提供を受ける者の当該役務の提供に係る物に標章を付する行為</p>	<p>・小売業者及び卸売業者は、店舗設計や商品展示、接客サービス、カタログを通じた商品の選択の工夫といったサービス活動を行っている。しかし、これらのサービス活動は商品を販売するための付随的な役務であり、且つ、対価の支払いが商品価格に転嫁して間接的に支払われ、直接的支払いがないため、商標法上の役務に該当しなかった。そこで、小売業者等によるサービス活動を、総合的なサービス活動の役務として保護できるようにした。</p> <p>・小売等役務とは、小売又は卸売の業務において行われる総合的なサービス活動(商品の品揃え、陳列、接客サービス等といった最終的に商品の販売により収益をあげるもの)をいう。但し、小売等役務には、商品の販売行為は含まれない(商6条についての審査基準)。</p> <p>・小売業者が使用する商標は、小売業者等によるサービス活動の出力を表現するといえ、その事業活動により獲得されるブランド価値は、当該サービスとの関係で蓄積される。</p> <p>・小売業と卸売業は、顧客が流通業者等の事業者であるか、一般の消費者であるかが異なるにすぎない。よって、卸売の業務において行われるサービス活動がなされ、且つ、そこで使用される商標がそのサービス活動の出所を表現するものであれば、いずれも保護される。また、製造小売業は、自己の製造した商品を取り揃え、顧客にその購入のための便宜を図る業態である(菓子屋、パン屋等)。そこで提供される役務は小売等役務と異ならないので、役務として保護される。</p> <p>・商品の出所表示が、役務の出所表示からは、切り分けられる。例えば、店員の制服や陳列棚等に表示され、小売等役務におけるサービス活動と密接な関連性を有する商標や、デパートやコンビニ等の包装紙、レジ袋等に付された商標は、そのレベルの態様及び使用の実情等を総合的に勘案すれば、役務の出所表示と考える。一方、プライベートブランドに表示される商標等のように、商品と密接な関連性を認識させる商標は、商品の出所表示と考える。</p> <p>・百貨店、卸売屋等のあらゆる小売業、卸売業が対象となる。また、カタログ、テレビやインターネットを利用した通信販売も対象となる。</p> <p>・WEB上で複数の都道府県の顧客から注文があっても、複数県で周知と認められるわけではない。</p> <p>・真正商品を詰め替えて無断で商標を付して販売などする行為は、商標の使用に該当して侵害を構成する。</p> <p>・商標を除去する行為は商標権の侵害となる。但し、シリアルナンバーの除去は商標とは関係ないので侵害とはならない。</p> <p>・名刺や株主総会の案内の便箋などに商標を表示したり、店舗内に特定の商標は掲げられているもの単に店舗前に立てられたのぼりに表示するだけでは、特定の商品と商標の間に具体的な関連性が認められないことから、商標を商品について使用したとはいえない(H18年改正本)。</p> <p>・包装には容器を含むが、実際に商品を包むのに用いられていない包装用紙などは含まれない。</p> <p>・「付する」には、商品その他の形状自体を商標登録された立体形状とすることも含まれる。</p> <p>・引渡しとは、物の上の現実の支配を移転することをいう。</p> <p>・ネットワークを通じて電子情報財の流通行為が、商品商標の使用行為に含まれる。</p> <p>・商品が電子情報財の時は、プログラム起動時や作業時のインターフェースに顧客が商標として視認できるよう、商標の電磁的な情報を組み込む行為をいう。なお、プログラムのコードデータ等に組み込まれた商標が、視覚的に商標の出所表示機能を果たしていない場合には、商標の使用から排除される(H14年改正本)。</p> <p>・登録商標が付され且つ役務の提供を受ける者の利用に供される物であっても、単にそれを輸入する行為は使用の定義には加えられていない。役務の提供の段階又は直接の関係性を有しないためである。しかし、役務を提供するため又はさせるために輸入する行為は、予備的行為とみなして商7条4号で侵害とみなす行為に加えた。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>・静止画像と操作によって変化する画像との類否判断は、変化する画像の变化の前後の態様も含めて総合的に観察して行う。</p> <p>・フレームの分割態様を、ありふれた分割手法に基づき変更したにすぎない意匠は、容易に創作することができる意匠と認められる。</p> <p>・画像を含む意匠の意匠登録出願において、願書の「意匠に係る物品」の欄に、物品の区分の後に「の画像」、「の画面」等の語を付したものの（例えば、「ビデオディスクレコーダーの画像」）の記載があるときは、別表第1に記載された物品の区分又はそれと同程度の区分による物品の区分とは認められず、意7条違反となる。</p> <p>・一つの部分意匠の意匠に係る物品の中に、二以上の異なる画像や物理的に分離した二以上の「意匠登録を受けようとする部分」が含まれているものは、意匠ごとにした意匠登録出願と認められない。</p>	<p>・組物は構成物品全体にかかるデザインの統一感を一の意匠として保護するものであるため、組物を構成する個々の物品の一部に該当するに過ぎない部分意匠としての画像については、組物の意匠について登録が除外されているのと同じ理由で登録が認められない。</p> <p>・画面デザインを部分意匠とする意匠権である場合は、部分意匠制度の意匠権と同様の考え方となり、画面デザイン全体を全体意匠の一部とする意匠権である場合は、通常の意匠権と同様の考え方となる。</p> <p>・DVD再生録画機器に関する部分意匠である画面デザインの場合は、当該画面デザインを表示することができるDVD録画再生機器を兼として製造、使用、譲渡等する行為が意匠権侵害行為となる。他方、同一又は類似の画面デザインを有しているとしても、物品が異なれば意匠が類似しないと判断され、意匠権侵害とされない。また、部分意匠の意匠権である場合は、当該画面デザインを使用した機器等が必ず侵害となるのではなく、侵害疑義物品の外観形状等の特色や独自性、あるいは当該物品全体の形状等に関する当該画面デザインの寄与度等を考慮して侵害の有無が判断される。全体意匠の意匠権である場合は、物品全体の形状等に関する類否判断を基本とし、画面デザイン部分については従来と同様の模倣等のように物品の表面の一部を構成するものとしてとらえるものとする。</p> <p>・画面デザインが物品そのものの表示部に表示されおらず、当該機器と接続されている汎用の表示機器等に表示されている場合については、当該表示機器として製造、使用、譲渡等する行為が侵害とされるのではなく、意匠権で保護された画面デザインをその部分とする物品の製造、使用、譲渡等が禁止される。</p>	<p>七 電磁的方法（電子的方法、磁気的方法その他の人の知覚によって認識することができない方法をいう。次号において同じ。）により行う映像面を介した役務の提供に当たりその映像面に商標を表示して役務を提供する行為</p>	<p>・モニターやディスプレイ等の映像面に、商標を表示して役務を提供する行為が該当する。なお、事業者のモニター等を通じて提供する場合も該当する（H14年改正本）。</p> <p>・「回線」とは異なり、「電磁的方法」とあるので、情報を双方向にやりとりするもの他に、放送等の一方方向にしか情報を送信できないものも含む。なお、音楽配信サービスも「映像面を介した役務」に含まれる（H14年改正本）。</p> <p>・HPの画面に商標を表示させる行為は使用に該当する。</p> <p>・オンラインゲームの提供に当たり、マウスに商標を付す行為は間接侵害（商37条）に該当する。</p> <p>・プログラムを起動すると商標が表示される様なプログラムを提供する行為は使用に該当する。</p> <p>・ネットワークを通じたサービス提供行為は、サービスマークの使用行為に含まれる。</p> <p>八 商品若しくは役務に関する広告、価格表若しくは取引書類に商標を付して展示し、若しくは頒布し、又はこれらを含む情報に商標を付して電磁的方法により提供する行為</p> <p>四 前項において、商品その他の物に商標を付すことには、商品若しくは商品の包装、役務の提供の用に供する物又は商品若しくは役務に関する広告を商標の形状とすることが含まれるものとする。</p> <p>・取引書類には、注文書、納品書、送り状、出荷案内書、物品領収書、カタログなどが含まれる。</p> <p>・ネットワークを通じた広告等の行為は、商標の広告的使用行為に含まれる。</p> <p>・ラジオ、街頭放送等の視覚に訴えないものは本号に該当しない。</p> <p>・店の看板に登録商標を付す行為は、広告に該当すると考えられるため、商標の使用に該当する。</p> <p>・広告には、看板、引札、ネオンサイン、飛行機が空に描いたもの、テレビ広告、カレンダー、広告塔、店頭人形などが含まれる。但し、ラジオ、街頭放送などの音声媒体による広告は含まれない。なお、商36条の差止は可能である。</p> <p>・商標を付する行為には、商品その他の形状自体を一項に規定する立体的形状とすることも含まれる。</p>
<p>3 この法律で意匠について「実施」とは、意匠に係る物品を製造し、使用し、譲渡し、貸し渡し、輸出し、若しくは輸入し、又はその譲渡若しくは貸渡しの申出（譲渡又は貸渡しのための展示を含む、以下同じ。）をする行為をいう。</p>		<p>5 この法律で「登録商標」とは、商標登録を受けている商標をいう。</p>	
<p>4 この法律で「登録意匠」とは、意匠登録を受けている意匠をいう。</p>		<p>6 この法律において、商品に類似するものの範囲には役務が含まれることがあるものとし、役務に類似するものの範囲には商品が含まれることがあるものとする。</p>	<p>・立体商標と平面商標でも類似関係が成立する。</p> <p>・類似は、同一又は類似の商品に使用された商標が外観、觀念、称呼等によって取引者に与える印象等を総合して全体的に考察すべきである。また、その商品の取引の実情を明らかにし得る限り、その具体的な取引状況に基づいて判断すべきものである。</p> <p>・例えば、商品「コンピュータプログラム」と、役務「インターネットを通じたコンピュータプログラムの提供」がある。</p>

Vertical line on the left side of the page.

Vertical line in the middle of the page.

Vertical line on the right side of the page.

(手続の補正)

(手続の補正)

<p>第六十条の三 意匠登録出願、請求その他意匠登録に関する手続をした者は、事件が審査、審判又は再審に係属している場合に限り、その補正をすることができる。</p>	<p>・補正却下不服審判中は補正できない。補正前後のどちらを基準としてよいか不明となり、補正却下の是非を争っているに補正を認めることは審判を覆るにしようからである。なお、審理終結通知後、審判が確定し審査に係属すれば補正できる。</p> <p>・写真、図面、見本、ひな形、相互間の補正であっても同一性が確保出来れば要旨変更にはならない。</p> <p>・審判請求から審判の間まで補正でき、査定書本送達前までは補正できる。つまり、拒絶査定不服審判又はその再審の審決書本送達前までは補正できる。一方、登録査定後に補正する機会はなく、無効審判中は補正できない。登録後の事情であるからである。</p> <p>・登録査定は送達により確定するので登録査定後は補正できない。特許も同様である。なお、商標法では、登録料の納付と同時に区分の数を減ずる補正ができるので、登録査定後も補正できる。</p> <p>・拒絶査定後審判請求前の期間は、審査又は審判に係属している期間に該当しない。よって、この期間に分割はできない。なお、拒絶査定不服審判は、審理終結通知後、審決まで補正できる。</p> <p>・願書及び図面等を総合的に判断して、部分意匠の意匠登録出願であること等を当然に導き出せるときに、「部分意匠」の欄を追加する補正は、要旨を変更するものではない。また、図面等を総合的に判断して、全体意匠の意匠登録出願であることを当然に導き出すことができるときに、「部分意匠」の欄を削除する補正は、要旨を変更するものではない。また、図面等を総合的に判断して、部分意匠であることが明確であれば、部分を当然に導き出すことができるときに、部分を特定する方法に関する記載を補充する補正は、要旨を変更するものではない。また、願書に「部分意匠」の欄がなく、図面等を総合的に判断して、全体意匠であることを当然に導き出すことができるときに、部分を特定する方法に関する記載を願書から削除する補正は、要旨を変更するものではない。</p> <p>・物理的に分離した二以上の部分を包含して、一意匠と取り扱うことのできない部分意匠の意匠登録出願を分割する際に、もとの部分意匠の意匠登録出願の願書に添付した図面等に表されていた当該「意匠登録を受けようとする部分」を「その他の部分」に訂正する補正は、要旨を変更するものではない。</p> <p>・意匠の属する分野における通常の知識に基づけば、当然に不備のない記載を直接的に導き出すことができるとき、記載不備が、意匠の要旨の認定に影響を及ぼさない程度の微細な部分と認められるときは、要旨を変更する補正ではない。</p> <p>・その意匠の属する分野における通常の知識に基づいて、願書の記載及び願書に添付した図面等から直接的に導き出される具体的な意匠の内容を、意匠の要旨という。</p> <p>・図面等からその意匠の属する分野における通常の知識に基づいて当然に導き出すことができる意匠の同一の範囲を超えて変更する補正、出願当初不明であった意匠の要旨を明確なものとする補正、は図面等の要旨を変更するものと認める。</p> <p>・要旨変更の具体的基準</p> <p>・図面：各図不一致の訂正、図法の訂正、陰影等の意匠構成要素以外のものを訂正等、誤記の訂正の範囲に入る場合は、原則として要旨変更ではない。新たな図面を補充する場合は、新たに表現提示された所が出願当初に開示されるものに基づいて、当業者が当然に推定想定するであろう範囲のものである時は、要旨変更にはならず、当然に推定想定する範囲を超える時は、要旨変更となる。模様や色彩を限定した意匠を、それらを限定しない意匠に変更することは原則として要旨変更該当すると解する。</p> <p>・意匠に係る物品の記載：原則として、意匠に係る物品が実質的に異なることとなる場合は要旨変更であり、表現上の相違であって実質的に物品そのものの変更とはならない場合は、要旨変更とはならない。例外的に、意匠に係る物品を実質的に変える場合であっても、他の記載からみて明らかに該記の訂正と言える補正は要旨変更とはならない。</p> <p>・意匠の説明の記載：要旨変更か否かは、図面の記載と一体的に解して意匠の本質に影響を与えるか否かで判断する。</p> <p>・意匠に係る物品の説明の記載：当初何等の記載もなく、後に説明を追加した場合は、図面等から推測して常識として納得できる範囲内であれば、要旨変更とはならない。一方、一旦何等かの記載があり、それを補正する場合には、その記載から類推でき且つ図面等からも推測して常識として納得できる範囲内であれば要旨変更となる。</p> <p>・補正が不適法である場合の取扱い</p> <p>・登録査定書本送達前に要旨変更と認定された場合は、その補正は却下される(意17条の2第1項)。出願人はこの却下に不服がある場合には、補正却下不服審判を請求でき(意47条)。不服がなく補正後の意匠について登録を望む場合には、新出願をすることができ、出願時が補正書提出時まで過ぎる利益を受けることができる(意17条の3)。また、登録後に要旨変更と認定された場合は、出願時が手続補正書提出時に繰り下がる(意9条の2)。第三者に不利益とならないようにするためである。</p> <p>・補正可能な時期を過ぎた補正は、弁明書提出機会を与えられた後(準特18条の2第2項)、却下処分となる(同1項)。</p> <p>・部分意匠の意匠の要旨とは、部分意匠を認定するための各要素(部分意匠の意匠に係る物品、「意匠登録を受けようとする部分」の用途及び機能、「意匠登録を受けようとする部分」の位置、大きさ、範囲、「意匠登録を受けようとする部分」の形態)から直接的に導き出される具体的な意匠の内容をいう。</p> <p>・一意匠と取り扱うことのできない部分意匠を、分割を伴わずに、「意匠登録を受けようとする部分」以外のすべての部分を「その他の部分」に訂正する補正は、要旨を変更するものではない。</p> <p>・部分の形態、位置、大きさ、範囲を、当然に導き出すことができる同一の範囲を超えて変更する補正は、要旨を変更するものである。また、形態、位置、大きさ、範囲が不明であるときに、それらを明確なものとする補正は、要旨を変更するものである。</p> <p>・「その他の部分」の一部を実線にすることによって、あるいは「その他の部分」の輪郭形状を変更することによって、「意匠登録を受けようとする部分」の形態、位置、大きさ、範囲を、当然に導き出すことができる同一の範囲を超えて変更するものとなる補正は、要旨を変更するものである。また、部分意匠の意匠登録出願であることを当然に導き出すことができるときに、全体意匠の意匠登録出願に変更する補正は、要旨を変更するものである。</p> <p>・「意匠に係る物品」の欄に別表第2に掲げる組物が記載されておらず、定められた構成物品のすべての物品に係る意匠が記載されているときに、「意匠に係る物品」の欄に別表第2に掲げる組物の一に訂正する補正は、要旨を変更するものである。ただし、「一組(一挿入)のセット(ユニット)」、「一組(一挿入)の」、「セット(ユニット)」などのような記載を、当該導き出すことができた組物の一に訂正する補正は、要旨を変更するものではない。</p> <p>・「意匠に係る物品」の欄に別表第2に掲げる組物の一が記載されているが、図面等に一の意匠しか記載されていないとき、「意匠に係る物品」の欄の記載を、当該一の意匠に係る物品が属する別表第一の下段に掲げられた物品の区分又はそれと同程度の区分による物品の区分に訂正する補正は、要旨を変更するものではない。</p> <p>・構成物品として適当であると認められる物品を補充あるいは削除する補正は、要旨を変更するものである。</p> <p>・図面等を総合的に判断して、構成物品の形態を当然に導き出すことができるときに、構成物品ごとの形態を表した図面を願書に添付した図面等に補充する補正は、要旨を変更するものではない。</p>	<p>第六十八條の四十 商標登録出願、防護標章登録出願、請求その他商標登録又は防護標章登録に関する手続をした者は、事件が審査、登録異議の申し立てについての審理、審判又は再審に係属している場合に限り、その補正をすることができる。</p> <p>・補正の定期的制限を規定している。内容的(客体的)制限については、商9条の4(指定商品等又は商標登録を受けようとする商標の補正と要旨変更)、商16条の2(補正の却下)で規定している。</p> <p>・一度削除した商品役務を追加する補正、標準文字である旨を削除する補正、文字商標の書体を変更する補正、商品の色彩の変更、は原則として要旨変更となる。</p> <p>・商標の一部に付記的に記載された文字を削除する補正、指定商品を減縮する補正、願書に記載された商品役務の区分に属さない指定商品役務を正し(変更する補正、は要旨変更とはならない)。</p> <p>・事件が審査、登録異議の申し立てについての審理、審判又は再審に係属している場合に限り、とは、査定・決定・審決までの意味である。</p> <p>・商標法特有の規定として、異議申立の審理に継続している場合が規定されている。なお、異議申立の審理に係属している場合は、登録後の場合なので、願書についての補正を意味していない。異議申立人がその手続の補正ができることを規定している。</p> <p>・出願人又は代理人が直接出願してその出願について補正をしようとするときは、軽微な環症に限り認められる。</p> <p>・拒絶審決に対する訴えが裁判所に係属している期間は、分割できるが補正できない。商68条の40の趣旨に反することになるからである。また、出願人は新たな分割出願をすれば全体が拒絶されるといふ不利益を免れることができるので、もとの出願に対して削除補正の効果の遡及効を認めるとも、出願人の利益が害されることはないからである(最高裁H16(行)4号)。</p> <p>2. 商標登録出願をした者は、前項の規定にかかわらず、第四十条第一項又は第四十一条の二第一項の規定による登録料の納付と同時に、商標登録出願に係る区分の数を減らす補正をすることができる。</p> <p>・出願時には使用意思があったにも関わらず、使用意思を失い権利化必要性がなくなった場合に、自己の使用する商標のみに商標登録を受ける機会を与えと共に、第三者に商標選択の余地を増やすためである。</p> <p>・指定商品を削除する補正はできない。</p> <p>・商標法においては、登録査定後に補正できる場合がある。但し、設定登録のための登録料の納付、分割納付の前半分の納付と同時にする場合に限られる。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

|

|

|

Vertical line on the left side of the page.

Vertical line in the middle of the page.

Vertical line on the right side of the page.

<p>意68条2項で準用する特18条の2第1項による出願却下(方式便覧):  原出願の出願人以外が補正却下後の新出願をしたとき  補正却下後の新出願を原出願の出願人全員で行っていないとき  図面を添付しないで意匠登録出願をしたとき(写真、ひな形又は見本を提出するときを除く)  意匠に係る物品を記載しない書面で意匠登録出願したとき  意匠登録出願と同時に又は設定登録料納付と同時に意匠を秘密にする請求をしたとき</p>	<p>商77条2項で準用する特18条の2第1項による出願却下(方式便覧):  原出願の出願人以外が、補正却下後の新出願をしたとき  補正却下後の新出願を原出願の出願人全員で行っていないとき  商標権の更新登録期間外に申請をしたとき  一般社団法人その他の社団(法人格を有しないもの及び会社を除く)若しくは事業協同組合その他の特別の法律により設立された組合(法人格を有しないものを除く)又はこれらに相当する外国の法人以外の者が団体商標登録出願をしたとき  組合等以外の者が地域団体商標登録出願したとき  防護標章登録の登録番号を記載しないで防護標章登録に基づく権利の存続期間の更新登録出願をしたとき  商標登録番号を記載しないで重複登録商標に係る商標権の存続期間の更新登録出願をしたとき  商77条2項で準用する特18条の2第1項による出願却下(方式便覧):  団体商標登録出願に提出された出願人名義変更届の承継人が、一般社団法人その他の社団(法人格を有しないもの及び会社を除く)若しくは事業協同組合その他の特別の法律により設立された組合(法人格を有しないものを除く)又はこれらに相当する外国の法人以外の者であるとき  地域団体商標登録出願に提出された出願人名義変更届の承継人が、組合等以外の者であるとき</p>

Vertical line on the left side of the page.

Vertical line in the middle of the page.

Vertical line on the right side of the page.

|

|

|

〔意匠原簿への登録〕		〔商標原簿への登録〕	
第六十一条 次に掲げる事項は、特許庁に備える意匠原簿に登録する。		第七十一条 次に掲げる事項は、特許庁に備える商標原簿に登録する。	
一 意匠権の設定、移転、信託による変更、消滅、回復又は処分の制限	左条文の下線部は平成20年法改正で改正された箇所である。	一 商標権の設定、存続期間の更新、分割、移転、変更、消滅、回復又は処分の制限	・商標権特有の原簿登録事項として、「更新」、「変更」、「分割」が規定されている。 商19条2項(商標権の存続期間は、商標権者の更新登録の申請により更新することができる。) 商24条の3第1項(団体商標に係る商標権が移転されたときは、次項に規定する場合を除き、その商標権は、通常の商標権に変更されたものとみなす。) 商24条(商標権の分割は、その指定商品又は指定役務が二以上あるときは、指定商品又は指定役務ごとにすることができる。)
二 専用実施権又は通常実施権の設定、保存、移転、変更、消滅又は処分の制限		二 防護標準登録に基づく(権利の設定、存続期間の更新、移転又は消滅)	・商標法特有の規定である。
三 意匠権、専用実施権又は通常実施権を目的とする質権の設定、移転、変更、消滅又は処分の制限		三 専用使用権又は通常使用権の設定、保存、移転、変更、消滅又は処分の制限	
2 意匠原簿は、その全部又は一部を磁気テープ(これに準ずる方法により一定の事項を確実に記録して置くことができる物を含む、以下同じ。)をもつて調製することができる。		四 商標権、専用使用権又は通常使用権を目的とする質権の設定、移転、変更、消滅又は処分の制限	
3 この法律に規定するもののほか、登録に関して必要な事項は、政令で定める。		2 商標原簿は、その全部又は一部を磁気テープ(これに準ずる方法により一定の事項を確実に記録して置くことができる物を含む、以下同じ。)をもつて調製することができる。	
		3 この法律に規定するもののほか、登録に関して必要な事項は、政令で定める。	
〔意匠登録証の交付〕		〔商標登録証等の交付〕	
第六十二条 特許庁長官は、意匠権の設定の登録があつたときは、意匠権者に対し、意匠登録証を交付する。		第七十一条の二 特許庁長官は、商標権の設定の登録があつたとき、又は防護標準登録に基づく(権利の設定の登録があつたときは、商標権者に対し、商標登録証又は防護標準登録証を交付する。	
2 意匠登録証の再交付については、経済産業省令で定める。		2 商標登録証又は防護標準登録証の再交付については、経済産業省令で定める。	